

以下の3つの課題から一つを選んでモデルを作りなさい。

課題1 第10章で作った分居モデルについて、さらに着眼点を加えて、モデルを改良しなさい。たとえば、エージェント種の追加、閾値のランダム化、引越すルールの変更、その他いろいろと地域社会の多国籍化（多文化共生社会）を想定して工夫しなさい。

課題2 練習問題19.1を参考にしながら、さらに現実に近い状況を踏まえた森林火災のモデルを作りなさい。たとえば、道路（防火帯）の有無、風の向きや強さ、植生の違い、消火活動の有無・方法、その他いろいろとあるでしょう。ただし、沢山の要素をモデルに含める必要はありません。インパクトのある1つまたは少数の要因を加えてください。なるべくサンプル・モデルを見ないで挑戦しましょう。

課題3 マルチエージェント・シミュレーションの特徴を活かしたモデルをartisocで作りにさい。人工社会を想定していますが、何でも構いません。作りたいモデルを作ってください。教科書の第3部、第4部も参考にしてください。オリジナルなアイデアを歓迎します。

注意

- ◎ モデル構築にあたっての問題意識や背景、モデルの概要や特徴（作者が強調したいセールスポイント）を記したレポート（A4用紙サイズで1, 2枚）と構築したモデルの両方を提出すること。なお、レポートの冒頭には、課題番号、適当なタイトル、学年所属、学生証番号、名前を明記すること。
- ◎ レポート・文章ファイル（MS-Wordで作成したもの）とartisocモデル・ファイルをメール（アドレス exam_post@yahoo.co.jp）に添付して提出すること

◎ 締め切り 7月14日(水)

◎ ここでいうモデル作りとは単にルールを書くだけではなく、シミュレーションの見せ方(出力設定)や数値設定(コントロールパネル設定)、コンソール画面の利用などを含みます。見栄えや操作性も評価の対象です。レポートの出来も評価の対象です。たとえば、モデル作りはあまり成功していなくても、着眼点や問題意識がユニークなレポートは相対的に高く評価します。

◎ 評価の目安	90以上	これはすごい、脱帽
	85-89	面白い、良くできているなあ
	80-84	なるほど
	75-79	もう一息
	70-74	まあまあだな
	65-69	努力したな
	55-64	工夫が足りない
	50-55	これだけかあ
	-49	何だこれは(怒)

◎ 蛇足ですが、課題1よりは課題2、さらに課題3の方が、高い評価を得る可能性が高まります。

◎ 授業を課題のための自習時間にします。その間、教員やTAが相談や質問に応じます。課外作業も、もちろん大歓迎です。

◎ <注意!> artisoc textbook ではルールを200行までしか書けません。ルールが200行を超える複雑なモデルを作ろうとする場合は、事前に上記アドレス宛てに相談してください。